

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2014. 3  
No.247

### “死に際を考える”ことは

#### 生きることを考える

私はイナテック企業理念の中で「仕事・人生の後始末をすることが大切です」と常に語らせていただいています。

私自身いつも自分の後始末について考え、興味を持っています。そんな中、慶応大学医学部の近藤誠先生の本『医者に殺されない心』の心得『より』に出会うことが出来ました。サブタイトルは『医療と薬を遠ざけて、元気に長生きする方法』です。

その本の最後に“リビングウイル”という言葉が出てきました。

それは自分の死の間際にどういう治療を受けたいかを“判断能力”のあるうちに文書にしておくことのようなのです。

日本では、リビングウイルはまだ法的な力はありませんが、書いておくことで意識を失った後も家族や医師に延命医療についての自分の意思を伝えられるということです。

私が企業理念の中で申し上げている“人生の後始末”の一つの方法ではないかと思っております。

自分で説明できなくなった時、色々な終末、「どう死にたいか」の希望は一般的に色々あります。

「鼻チューブ栄養のような強制的な栄養補給は一切不要」

「人工呼吸が一週間続いて意識が戻らなかつたら装置を外して欲しい」

「植物人間状態になっても出来るだけ生きていきたい」

「自分で食べられなくても胃瘻をしてでも生きていきたい」など

具体的に書いて身内の同意をもらい、毎年更新していくものがリビングウイルです。

そこで私（稲垣良次）も近藤先生のリビングウイルを参考にさせていただき、自分で考えたものを書いてみました。

### 〽稲垣良次のリビングウイル〽

一切の延命治療はしないでください。

私は会社では社員の皆さんに企業理念も我慢してよく聞いていただけだし、無理な方針にも対応して頂き、やりがいのある仕事もさせていただきました。

社員さんも50名を超し、中国平湖にも会社設立が出来、これも皆さんのお蔭です。

又、ヨットにも乗らせていただき、レクサスLFAも乗せていただき、マフソンや駅伝にも参加させていただいた家族にも大変感謝いたしております。

わがままで、好きなことばかりやってきたこと、申し訳ございません。

本当に幸せな人生です

私は皆さんのお蔭でやりがいのある人生を生きてきました。

61歳まで好きなことに打ち込めて幸せでした。

そして自分らしく人生を終えたいと思っています。

今、私は意識を失っているか、呼びかけに少し反応するだけだと思います。すでに自力では呼吸もほとんど出来ないかもしれません。

このまま命が尽きても、何も思い残すことはありません。

だから決して救急車は呼ばないでください。

すでに病院にいるなら、人工呼吸器をつけないで下さい。つけられているなら、外して下さい。自力で飲んだり食べたり出来ないなら、無理に口に入れないでください。

点滴もチューブ栄養も、昇圧薬、輸血、人工透析なども含め、延命のための治療も何もしないでください。すでに行われてい

るなら、すべてやめて下さい。  
もしも私が苦痛を感じているようなら、モルヒネなどの痛みを和らげるケアはありますがたくお受けします。

今、私の命を延ばそうと力を尽くしてくださっている方々に、心から感謝いたします。

しかし私のこの願いを聞いてください。私は

この文章を冷静な意思のもとに書き、家族の了解を得ています。

一切の延命治療をしないで下さい。

この最期の願いをどうぞ叶えて下さい。

決して後悔しないことをここに誓います。

2014年1月17日

稲垣良次

これはイナテック企業理念で語らせていただいていることの一つの実践のかたちだと思っております。

皆さん宜しくお願い致します。

ありがとうございます。